

## 行政報告（令和6年12月 第4回 定例会）

皆さん、おはようございます。

令和6年第4回議会定例会を召集申し上げたところ、議員各位には何かとお忙しい中、ご出席を賜り厚く御礼申し上げます。

定例会の開会にあたり、ごあいさつを兼ね行政諸般の報告をさせていただき、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

国の経済状況でございますが、内閣府が11月15日発表した本年7月から9月期の実質国内総生産（GDP）は、個人消費が全体を押し上げ、前期比0.2%の増、年率換算で0.9%の増となり、2期連続でのプラスとなりました。

33年ぶりの高水準となった春季労使交渉における賃上げの効果などによる所得の改善により、先行きについても、緩やかな景気回復の継続が期待される一方、インバウンド消費は、前期比13.3%の減となり、令和4年4月から6月期以来、9期ぶりのマイナスになることが示されました。

このような中、政府は物価高への対応などを柱とした、新たな経済対策を決定し、裏付けとなる補正予算案の年内成立を目指す方針を打ち出しております。

電気・ガス料金の補助を来年1月から再開し、3月まで行うこと、住民税の非課税世帯を対象とした給付金の支給などが盛り込まれ、また、本年1月の能登半島地震や、9月の豪雨災害からの復旧・復興の加速に向け、避難所環境の改善のためのトイレカー等の資機材整備、避難所となる体育館等の空調整備の倍増などの内容が示されており、国の施策の動向を充分注視しつつ、町の施策展開につなげていければと考えております。

現在、令和7年度当初予算の編成時期を迎えており、11月12日には、職員に編成方針を通知し、要求基準を示したところであります。

当町の財政状況は、好調に推移する「ふるさと納税」効果もあり、健全財政を維持しておりますが、地方交付税は今後、人口減少による基準財政需要額減が予想されるなど、財源確保はより一層厳しい状況になるものと考えております。また歳出面では、物価高騰等への対応に加え、高齢化の進行等に伴う社会保障関連経費の増加、老朽化した施設改修などの負担増が予測され、厳しい財政運営となる見通しとなります。

町の重要課題や予算編成の方向性に沿って、限りある財源をより効果的・効率的に配分するよう努めてまいります。

それでは、行政諸般の報告をさせていただきます。

はじめに防災関係ですが、

去る12月1日、各地区自主防災会役員を中心に、防災委員、消防団員及び住民の皆様が参加し、地域防災訓練を実施いたしました。訓練では、避難路の確認、AEDを使用した救命訓練、黄色いリボン・ハンカチを使用した安否確認、高齢者への声かけ、資機材の取扱い及び備蓄品の確認・点検を行いました。引き続き、住民一人ひとりが、自主的に行動できるよう、積極的な訓練への参加、家庭での防災対策の推進をお願いいたします。

次に、消防関係ですが、

11月9日からの「秋季全国火災予防運動」に伴い、ひがしいず幼稚園及び東伊豆認定こども園の園児を対象に、火災予防の啓蒙活動を実施いたしました。当日は、消防ポンプ自動車を展示するとともに、啓発用の風船を配布し、消防団員から園児らに火災予防を呼びかけ、意識の醸成に努めました。

消防団の訓練として、11月9日に新堤防付近を火元とした大規模な延焼火災を想定し、各分団が適切な位置への水利・中継送水及び無線運用並びに分団及び消防署隊との連携強化を図りながら、放水訓練を実施いたしました。

次に交通安全関係ですが、

12月15日から31日まで、年末の交通安全県民運動が実施されます。年末の慌ただしい時期となりますが、町民の皆様には、交通ルールの遵守と交通マナーの実践を心がけるようお願いいたします。

次に防犯関係ですが、

10月19日、「暴力追放、銃器・薬物根絶住民大会」が、西伊豆町において行われました。この大会は、1市5町によって、2年に一度開催するもので、「暴力団等の反社会的勢力の存在をゆるさない」「銃犯罪をゆるさない」「薬物の使用をゆるさない」ことを申し合わせるとともに、「暴力追放、三ない運動プラスワン」を広くアピールし、暴力・銃器・薬物犯罪のない安全で住みよい社会の実現を目指すもので、目的の達成に向け、各町間での意識の共有に努めました。

続いて企画関係ですが、ノッカルひがしいずは12月1日から、稲取地区の追加とエリア間移動をスタートさせました。ドライバーは一般4名、役場職員6名の計10名が新たに加わり、合計で40名体制で運行しております。

今年度の実績は、11月末までの8か月間で、164ライド、186人ですが、今後も一般ドライバーの確保に努めながら、オンタイム予約や各旅館が運行するマイクロバスとの連携を高め、すべての方の快適な移動をサポートしてまいります。

地域おこし協力隊関係では、11月から新たに「平野芹奈（せりな）さん」、12月から「山本啓介（けいすけ）さん」が着任いたしました。平野さんには、「移住・定住促進事業を、山本さんには、「関係人口創出事業」をそれぞれ、担当して活動していただきます。現在、当町で活動する地域おこし協力隊は12名となりますが、隊員の能力や経験を活かし、課題解決や地域振興を進めていきたいと思っております。

10月18日、「移動知事室及び知事広聴」が開催され、現在、町が進めている「白田・片瀬コンパクトシティ事業」、「幼小中高の一体的な整備」及び「地域公共交通」について説明し、意見を交わしました。

「白田・片瀬コンパクトシティ検討会議」については、8月26日に検討会議を開催したところですが、人口減少が進み、空き家が増加する状況において、専門家の提案をいただきながら、この状況に対応したコンパクトな町づくりやゾーニング、白田川橋の必要性等について、委員とともに検討をすすめることとしており、今後、静岡県及び同教育委員会とも連携をとりながら、議論を深めてまいりたいと考えております。

10月14日、町がNPO法人ローカル・デザイン・ネットワークに委託し進めるワーケーション推進事業として、「ゴルフワーケーション」を実施いたしました。町外から、15人の皆様にご参加いただき、当町で仕事をさせていただくとともに、東伊豆町ゴルフ連盟12人のメンバーとゴルフを楽しみながら、交流を深めていただきました。

また、11月10日、当町のファンクラブ「うちっち」の交流会事業として、「東伊豆町うちっち交流会2024」を東京の田端にある伊豆の漁師バル「おためし屋」で開催いたしました。当日は23人の方々にご参加いただき、ファン同士の交流を育むことができました。今後のまちづくりには、当町を好きになるファンを増やすことが大切だと考えており、関係人口の創出に力を入れてまいります。

12月2日から、町のホームページをリニューアルいたしました。デザインのみならず、見やすさ、検索のしやすさなどを向上し、今後も、町民及び観光客の皆様へ、しっかりと情報発信ができるホームページとなるよう、内容の充実に努めてまいります。

続いて、税務関係ですが、

令和6年分所得税及び個人住民税の定額減税に伴う調整給付金は、10月末で終了し、対象となる2千137人に、7千936万円を給付いたしました。今後、確定申告等により、調整給付金が増える方には、令和7年度に差額分を給付する予定であります。

11月及び12月は、県下一斉の「滞納整理強化月間」として、広報誌やポスター等による納税啓発に努めております。町税の滞納者に対し、文書や電話によ

る催告を通じて、納税を促すとともに、賀茂地方税債権整理回収協議会との連携の下、財産調査に基づく差押などの滞納処分を強化しており、町民の信頼に応える納税秩序の維持と、町政運営における貴重な自主財源の確保に取り組んでまいります。

11月11日には、下田税務署長による納税表彰式が行われ、当町からは、税務行政に貢献した2名の方が、名古屋国税局長表彰及び伊豆下田税務協議会長表彰を受賞されました。また、同日から17日までの「税を考える週間」の一環として、「税に関する作品」を募集したところ、ポスター3点、習字42点及び作文16点の応募をいただき、このうち、伊豆下田納税貯蓄組合連合会による表彰を受けた作品8点を、役場ロビーに展示し、納税意識の高揚や滞納抑止に努めたところでございます。ご協力をいただきました児童・生徒を始め、学校関係者の皆様には、改めて感謝申し上げます。

続いて、住民福祉関係ですが、

6月補正予算（第4号）において、予算措置させていただきました、物価高騰対策給付金給付事業の、非課税化給付分及び均等割のみ課税化給付分、1世帯あたり10万円並びに、こども加算分、一人あたり5万円の給付が、11月27日に完了いたしました。実績は、非課税化給付分「209世帯」、住民税均等割のみ課税化給付分「105世帯」及びこども加算分「32人」への給付となりました。

次に、高齢者の方々に対し、感謝と長寿をお祝いするため、88歳の米寿を迎えられる方に1万円、100歳を迎えられた方に5万円の敬老祝い金を贈呈しております。本年度は、88歳を迎えられる方が104名、めでたく、100歳を迎えられた方が3名となっております。今後も、ご高齢の皆様には、健康に留意され、益々のご健勝をお祈り申し上げます。

続いて、健康づくり関係ですが、

今年度もインフルエンザ流行の時期を迎えました。今年は例年より、やや早い流行入りと伺っております。インフルエンザをはじめとする感染症の予防には、日常生活での予防及びワクチン接種が重要であります。町民の皆様には、引き続き、せきエチケット及び手洗いの励行並びに感染予防及び重症化予防の観点から、予防接種の検討をお願いいたします。

10月27日、熱川地区で「奈良本ヘルシーウォーク」が開催され、43人の方々に参加されました。奈良本区及び奈良本商店会が中心となり、地域の皆様の健康を考える良い一日となったものと考えております。

続いて、観光関係ですが、

本年3月から9月の入湯客数は39万3千487人で、前年対比で見ますと約

9. 8%の増となりました。近年では、毎年酷暑となり、これまで最大の観光シーズンであった夏休みも、日中には活動しにくい気温となっていると感じております。また、お盆時期の台風襲来や、南海トラフ地震臨時情報による行動の抑制などにより、観光への痛手となる事柄が続きました。

実際、8月の入湯客数は、前年の95%に留まっておりますが、その他の月は順調な伸びを示しております。これからも、夏のシーズンは酷暑が続くことが考えられますので、気候に左右されない観光対策を講じていかなければと実感しております。

次に、イベント関係ですが、

9月29日、熱川温泉において「石曳き道灌まつり」が開催され、来場者は1千300人と伺っております。築城石を曳く体験をされたお客様は、一様に、とても楽しそうな表情だったのが印象的でした。本物の築城石を曳くという体験は、記憶に残る良い経験となったことと思われまます。

10月5日、稲取温泉において「どんつく祭り」が開催され、来場者は2千人と伺っております。当日は、姉妹都市である長野県岡谷市関係者及び東京都大島町関係者をお招きし、当町での交流を深めていただきました。また、「お神輿」、「芸者踊り」、「どん太鼓」等も見学していただき、「天下の奇祭」と呼ばれる祭りを堪能していただけたものと感じております。

同じく10月5日、東京都の渋谷ストリームにおいて、「渋谷温泉イベント」が開催されました。あいにくの雨天でしたが、会場には1万5千人近くの方々が訪れたということで、東伊豆町の温泉、つるし飾り等の良い宣伝となりました。足湯の体験には、235人の参加があったほか、東伊豆町ファンクラブ「うちっち」への登録も32件ありました。

私も参加した、温泉の専門家を集めたトークイベントは、インスタグラムにて生配信されました。天候が良ければ来場者も、もっと伸びていたものと思われまます。また、同ストリーム内では、9月14日から10月5日までの出店及び、事前のメディアリリースも行っており、掲載メディアは91件に上ったほか、ラジオでの宣伝に加え、テレビでも取り上げられるなど、温泉地である東伊豆町への関心が高まっていると実感できました。

11月16日、「星空シネマ」主催による「台湾ナイト」が開催されました。横浜中華学院から獅子舞チームを招き、演舞を披露していただくため、町としても協力体制を築き、進めてまいりました。当日は、主催者及び協力メンバーの活躍により、1千700の方が来場する大盛況のイベントとなり、町からも感謝の意を伝えたところでございます。

11月23日、「熱川温泉ミライまちづくり協議会」主催による「熱川温泉湯けむり夜市」が開催され、約600名の観光客や地元の方々に賑わいました。熱川温泉を盛り上げるために立ち上がった同協議会による、初めての出店イベント

であり、台湾提灯が飾られた「はなはなパーク」には、台湾に所縁のあるお店を含めた7店が出店して会場を盛り上げ、来場者の満足度を高めていただけたものと考えております。来年4月には、グレードアップしたイベントを開催する計画を進めているとのことですので、今後の活躍にも期待しているところでございます。

11月24日、「町民ゴルフ大会」は88名の参加により開催されました。以前の大会に比べ、参加者数が少なくなっているため、ゴルフを楽しまれる町民の皆様は、是非、今後の大会に参加していただければと望んでおります。スコアなどは気にせず、広大なゴルフコースを、気持ちよくラウンドしていただきたいと願っております。

11月1日から12月1日まで、稲取細野高原「秋のすすき鑑賞会」が開催されました。真夏日が続き、気温が下がらないためか、すすきの穂が、例年よりも少なく、不安もありましたが、土日を中心に、まずまずの来遊客があったと報告を受けております。

今年から、イベント前に「防火線焼き」を実施する計画で進められておりましたが、天候不順により、11月4日に行われました。すすきの見ごろは、年々、遅くなっておりますので、「防火線焼き」を先行して実施し、イベント期間を長くすることで、お客様を歓迎する機会が増すものと思っております。細野高原の活用は、「細野高原みらい協議会」にて検討されておりますので、期間中、お客様にもっと楽しんでもらえるメニューを増やしてもらえればと望んでおります。

次に、台湾との交流関係ですが、

10月31日から11月3日まで、町、町商工及び町内動物園関係者が「日台商店街国際交流フォーラム」等に参加し、私が熱川温泉の活性化策についての講演を行ってまいりました。台湾の九份の雰囲気を熱川温泉に再現しつつ、商店街の活性化につなげていく取組みは、参加されていた台湾の観光及び商工関係者にも、興味を持っていただいたとともに、今後の交流のきっかけになったものと感じております。

また、「熱川バナナワニ園」園長及び「伊豆アニマルキングダム」副支配人が、台北市立動物園との今後の交流、主に職員交流について、会談を行ったほか、熱川温泉の整備にあたり、モデルとしている九份の商店会長を始め、主要メンバーとも話し合い、相互に宣伝を図っていくことを確認いたしました。さらに、日本での展開がある、現地旅行業者代表とも交流を持ち、旅行商品販売について話し合う機会を得ることができました。

また、11月9日からは、「伊豆稲取キンメマラソン実行委員会」のメンバーが中心となり、台湾の田中地区で開催された「台湾米倉田中マラソン」に参加いたしました。本年6月に開催された「稲取キンメマラソン」の際、「台湾田中マラソン」の主催者から招待券を頂戴しており、来年の「稲取キンメマラソン」招

待券及び記念品を提供し、今後の交流についても話し合われたようです。台湾から「稲取キンメマラソン」への参加ツアーの申し出もあったため、今後の展開に期待を寄せております。

次に農業関係ですが、

10月23日から29日まで、明治大学の学生8名が「ファームステイ実習」のため、来町いたしました。4箇所の農家にて2名ずつが、ミカン、いちご、野菜などの農作業に従事し、体験実習をしました。参加した学生は、作業の大変さを感じながらも、やりがいを見出し、農業への関心がさらに高まったようであり、明治大学からも、目的達成につながったとの謝意が示されております。

その他、町のピーアールとして、「浅草ピーアールフェスタ」「伊豆うまいもん市」「ふるさとチョイス大感謝祭」「昭和女子大コスモス祭」「静岡夢逸品市場」など、首都圏や静岡市において、東伊豆町をピーアールしてまいりました。町の知名度を上げて、少しでも誘客に貢献できればと考えております。

次に商工関係ですが、

毎回、好評をいただいております地域商品券は、今年も6千冊を用意して販売いたしました。現在、若干ではございますが、残りがあるようですので、まだ、購入されていない方は、お早めにお求めください。

次に、ふるさと納税関係ですが、

本年度、当初予算の歳入は5億円としております。予算はクリアできる見込みであるものの、全国で大規模な災害が発生するなど、その復興の応援にも「ふるさと納税」が活用されていることもありますので、過剰な見込をせず、寄附金確保の取組を進めたいと考えており、11月9日、10日に「パシフィコ横浜」で開催された「ふるさと納税大感謝祭」に参加いたしました。同イベントでは、全国から160の自治体が参加、来場者数も過去最大の1万4千819人という規模で開催されており、当町からは商品の試食販売、SNS登録キャンペーンなどを行い、当町をピーアールしております。

次に、建設整備関係ですが、

法定で点検・修繕が義務付けされた、「橋りょう補修」につきましては、工事2件及び設計2件を実施しております。今後も計画に沿って推進し、安全確保に取り組んでまいります。

11月25日、伊豆縦貫自動車道の建設促進と半島振興対策の促進や財源確保に向けて、関係省庁や国会議員に対し、要望活動を行ってまいりました。地籍調査事業につきましては、稲取Ⅱ地区として、田町区町内会の一部であります0.04平方キロメートルの土地について、昨年、境界立会を行い、ご確認い

ただいたところですが、12月15日から1月20日にかけて、その閲覧会を行い、確定作業を実施いたしますので、関係各位には、ご協力をよろしくお願いいたします。

次に、教育関係のうち、学校教育関係ですが、

各種行事及び体育文化活動につきまして、9月29日には、熱川・稲取の両中学校がそれぞれ「体育祭・運動会」を、10月12日には、ひがしいず幼稚園が「運動会」を実施いたしました。

「ひがしいず幼稚園・運動会」では、今年、植栽した芝生が生い茂り、園庭を緑一面に覆いつくす中、園児たちの懸命に頑張る姿を応援し、園児や保護者の皆様とともに、笑顔あふれる楽しいひと時を過ごすことができました。

9月には、両小学校の修学旅行が行われ、小学6年生が1泊2日の日程で東京方面を訪れました。首都、東京の施設や歴史ある場所を見学することで、文化や歴史に対する見方や考え方を深めてくれたものと思います。

11月15日には、七五三のお祝いが、ひがしいず幼稚園にて行われました。今回、対象となったのは、幼稚園の年長児14名です。園児とご家族の皆様にお祝いを申し上げますとともに、健やかな成長を心から願うところであります。

次に、社会教育関係では、

11月9日、10日、「第47回・町民文化祭」が開催されました。稲取小学校の体育館を会場に、展示の部30団体、舞台の部10団体が参加、2日間で延べ1千46人の町民の皆様が来場し、作品の鑑賞や舞台を楽しんでいただくことができました。準備段階から御尽力いただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

11月16日、「第40回青少年主張発表大会」を開催し、小学生2名、中学生2名及び高校生2名の、計6名の児童・生徒から発表をしていただきました。日頃、学校や地域社会で、問題や話題となっていること、将来の夢などをテーマに、それぞれの思いや課題解決のための提言など、真剣に悩みながら考え、主張発表していただいたものと感銘を受けました。役場職員にも、発表内容の情報共有を図り、発表者の思いを受け取って、我が町の町政に活かしていければと思う次第でございます。

11月30日、「第25回・静岡県市町対抗駅伝競走大会」が、静岡市で開催されました。駅伝参加にあたっては、8月から練習を開始し、11月14日に「結団式」を行い、チームが一丸となって臨み、東伊豆町の代表として精一杯、タスキをつないでいただきました。選手の皆様はもとより、ご協力いただいた関係者各位に心より感謝申し上げます。

年明けの1月1日、「元旦マラソン&ウォーキング」を計画しております。初日の出を浴びながら、心身の健康を願っていただければと思います。令和7年、

最初のイベントとなりますので、町民の皆様の参加を心からお待ちしております。

毎年、1月に開催しております「東伊豆町二十祭」は、本年度、令和7年1月12日に開催いたします。多くの若者が進学や就職による経験を積み、視野を広め、周囲への感謝や将来設計を深めたこの時期に開催することとしており、二十歳の門出を祝う意義深い行事であると捉えております。

次に水道事業関係ですが、

水道料金第4期分までの現年度調定額は、前年対比、約150万円、0.5%の増となりました。3期分まででは前年対比、約850万円、4%の増と、前年度を大幅に上回っておりましたが、8月8日に南海トラフ地震、臨時情報が発表されたことで、夏場の観光客数に影響を及ぼし、前年並みの使用量になったと考えております。

今後も、動向を注視しながら事業を運営し、継続的に安全・安心な水の供給を行っていただけるよう、取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、師走の慌ただしい時期を迎えております。日一日と寒さも厳しくなりますので、町民並びに議員各位におかれましては、健康に十分留意されまして、ますますご活躍くださいますようお願いいたしまして、行政諸般の報告とさせていただきます。